

(第3種郵便物認可)

4日、富山県南砺市のたいらスキー場などで3種目を行い、アルペンの男子大回転は昨年の大回転、回転で2冠を達成した大越龍之介(東海大四)が2位に1秒以上の差を付け、合計タイム1分55秒68で優勝した。2位は高沢伸(歌志内)が入った。石井智也(北照)は4位、泉谷暖(東海大四)は5位だった。ノルディ

全国高校
スキー
第3日

ックの距離女子5キクラシカルは、柳箱万智子(旭大高)の6位が道内勢で最高だった。複合は前半飛躍(H S85m、K点75m)で佐々木啓夫(下川商)が234.5点で2位につけた。後半の距離(5日)はトップのトリノ五輪代表の渡部暁斗(長野・白馬)から24秒遅れでスタートする。

男子大回転 大越(東海大四)攻めて連覇



圧倒的な速さで2連覇を果たした大越の2回目の滑り(玉田順一撮影)

2位高沢に1秒02差

圧巻だった。直線的なにもかわらず、大越は旗門設定だった1回目に攻めた。だれよりも早いクスの滑りで、ただ一人に余裕はない。一緒に大きな難しい設定だった余裕を持って次々とボー1回目を終えてトップの大越と、2位高沢との差は0秒10。「タイム差に余裕はない」。一緒に海外遠征を経験し、その

実力を知るライバルの高沢だけに余計にそう感じた。普段から、フルアタックが信条だが、特に気が入った。昨年の全国高校では2冠を制し、「今年負けるわけには行かない」という意地もあった。結局、差を1秒02に広げた。

今季はジュニアの全日本チームのメンバーながら、1月にW杯の下に当たる欧州カップの回転2戦に出場して自信をつけた。大人に交じっての戦いはシードもない100番台のスタート順もあったが、ともに2回目に残った。同時に、「欧州の選手は勝ちに對することばかりがすごく強いことを感じた。勉強になった」と話す。今回、欧州で学んだ、勝ちにこだわる姿勢が生きた。

回転で優勝すれば、2年連続の2冠達成で、アルペンでは初の快挙となる。そのことを知らされた大越は「マジっすか? (次の試合は) 大きいですわ」とあらためて気を引き締めていた。

(安福 洋)